

平成 28 年度第 2 回幕別町総合教育会議議事録

1 開催日時 平成 29 年 1 月 19 日（木）午前 10 時 00 分開会 午前 11 時 35 分まで

2 開催場所 幕別町教育委員会会議室

3 出席委員（6 名）

幕別町長	飯田 晴義
幕別町教育委員会教育長	田村 修一
教育委員	小尾 一彦
教育委員	瀧本 洋次
教育委員	國安 環
教育委員	東 みどり

4 欠席委員 無

5 日程

- 1) 開会
- 2) 挨拶
- 3) 意見交換

・教育委員会主要懸案事項及び平成 29 年度予算について

6 幕別町企画総務部長	菅野 勇次
〃 政策推進課長	山端 広和
〃 政策推進課副主幹	鯨岡 健
幕別町教育委員会教育部長	山岸 伸雄
〃 学校教育課長	高橋 修二
〃 生涯学習課長	湯佐 茂雄
〃 学校給食センター所長	妹尾 真
〃 図書館館長	林 隆則
〃 学校教育課総務係長	白坂 博司
〃 学校教育課学校教育係長	守屋 敦史

7 会議の概要

山端課長 定刻になりましたので、ただ今から平成 28 年度第 2 回幕別町総合教育会議を開催いたします。はじめに飯田町長、挨拶をお願いいたします。

飯田町長 おはようございます。本日は年初めのお忙しいなか、そして足元の悪いなかお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、8 日の成人式には、皆さんお揃いでご出席いただき誠にありがとうございました。その成人式のなかで、今年も感じたことは町歌が歌われていないことで、3 年前私が教育長の時に初めて成人式に出席しまして、前奏が始まるとざわつくムードがありました。これは、学校でしっかり歌わなければと思ひ各学校に町歌の CD をくばり、空き時間に流していただくようお願いしました。まだ、その卒業生が成人にしておりませんので、あと 5 年経てばと思ひますが、あの

ざわつきを聞いていますと非常に心配になりました。

今日は、教育委員会の主要懸案事項及び新年度予算についての意見交換であります。私の公約の中にも子育て支援の一貫として、教材費等の支援がありまして、そのような内容も検討をいただいているところでありますが、一般財源が確保できない非常に厳しい財政状況であります。そのような中で、選択と集中という考え方で、現に必要な事項に予算を付けていく予算編成を行ってまいりたいと思っております。みなさんの忌憚ないご意見を聞かせていただければありがたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

山端課長

議事進行につきましては、飯田町長にお願いします。

飯田町長

今日は6点ほど項目にしてあります。まず1点目、2点目、3点目、6点目、資料の1、2、3、6について事務局より説明をお願いします。

高橋課長

それでは私の方から資料の1、2、3、6につきまして、ご説明を申し上げます。まず1ページ目、資料の1枚目でございますが、小中一貫教育等の推進についてのご説明をさせていただきます。

小中一貫教育等の推進につきましては、平成28年度から事業調査、研究をスタートしており平成30年4月にモデル校設置を考えております。経過といたしましては、平成28年4月に教育委員会内にプロジェクトチームを設置いたしまして、会議を開催しております。5月には校長・教頭会議におきまして、小中一貫についての説明をさせていただいております。その後、6月には教育委員会会議におきまして推進協議会の設置の決定をいただき、7月に1回目の町内の小中一貫推進会議を開催しております。10月には推進会議の委員による視察研修を実施いたしまして、東京都三鷹市、武蔵村山市の2カ所の先進地を視察しております。また、全国の小中一貫教育のサミットにも参加している状況にあります。その後、町教育研究所におきまして、12月に小学6年生、中学1年生に対しての小中一貫等のアンケート調査の実施をしていただき、年明け冬休みには、町教育研究所委員の視察研修を実施し浦幌町に行っております。

今後の予定といたしましては、2月に町内の推進会議の予定をしております。内容につきましては、10月に実施いたしました視察研修の報告、小中一貫の推進にあたる基本構想の提案をさせていただきたいと考えております。3月には、町研究所が実施いたしましたアンケートの結果がまとまる予定となっております。平成29年度の予定につきましては、4月には、2月に提案をさせていただきました基本構想の決定を行い、5月連休明けになるかと思いますが、小中一貫に関する保護者へのアンケート調査の実施をまいりたいと考えております。その後、6月からは、毎月1回程度のペースで推進会議を開催し、今後における推進計画案、教育課程、モデル校等の選定も含めながら、平成30年度のモデル校設置へ向けた協議を進めてまいりたいと考えております。また、6月には各中学校区別のエリア委員会についても、学校の先生方を中心に開催と推進会議委員の道内視察研修を計画しております。道内研修では、学校の先生方を含めた委員を3班程度に分け先進視察を行う予定となっております。9月には、学校保護者に対する小中一貫教育の講演会を開催したいと考えております。11月ですが、平成29年度の視察

等の研修報告、そして 12 月には、各地域においての小中一貫の地域保護者等への説明会を実施してまいりたいと考えております。年明けにおきましては、推進会議の中で平成 30 年度以降のスケジュール等も提示をさせていただきながらモデル校の指定を決定したいと考えております。平成 30 年度 4 月にはモデル校を設置し学校実践を進め、各種研修、実施後の課題及び改善点等を踏まえて、平成 31 年度以降の実践の検討と意見交換を計画しているところでございます。

続きまして、2 ページをご覧くださいと思います。資料 2 でございます。義務教育支援事業補助金についての説明をさせていただきます。

これにつきましては、先ほど町長の開会のご挨拶のなかでも触れましたが、町内の小中学校に就学しているお子さんに対する保護者の経済的な負担の軽減を図る目的で、平成 29 年度から子ども達の修学旅行に要する費用の一部を補助してまいりたいと考えているところでございます。2 の補助対象の経費といたしましては、修学旅行費の 1/2 の助成を考えております。小学生は 3 万円、中学生は 7 万円という上限を設けておりますので、その 1/2 で、小学生が 1 万 5 千円の上限、中学生が 3 万 5 千円の上限で考えております。補助の対象となります児童生徒につきましては、平成 29 年 4 月で、小学生 6 年生が 264 人、中学 3 年生が 297 人の児童生徒を見込んでおります。4 の予算要望額でございますが、平成 29 年度におきましては、791 万円の予算を計上させていただいており、中学生のみということで、中学生を先行させていただいて実施をしていければと今のところ考えております。

続きまして、3 ページをご覧くださいと思います。資料 3 でございます。学校図書館の図書購入についての説明をさせていただきます。これにつきましては、以前、教育委員会会議内におきましてもご意見等いただいていたところでございます。図書館の目的といたしましては、児童生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開、児童生徒の健全な教養を育成することを目的として全ての学校に設置をしております。次に、学校図書館の図書標準ですが、平成 5 年に文部科学省が学校図書館の図書の充実を図るという事を目的に、学校図書館図書標準を設定しております。図書標準は、学校のクラスごとに基準が示されているところでございます。学校図書標準の達成率は、過去 3 年について記載しております。現状におきまして、小学校 9 校のうち平成 28 年 5 月 1 日現在 100%を超えている学校については 2 校でございます。小学校 9 校の割合といたしましては、図書標準に対して達成率としては 90%の状況でございます。また、中学校 5 校におきましては、100%を超えているのが 3 校、残りが 80%で中学校の達成率といたしましては 92.4%となっております。小中学校の合計では、達成率は 91%の状況でございます。教育委員会といたしましては、学校図書館の増冊数の目標を、平成 29 年度、30 年度の 2 ヶ年で全学校図書達成率 100%を目標にしたいと考えております。これによりまして、今回、平成 29 年度予算を計上させていただいております。小学校につきましては、昨年 400 万円に対しまして今年度 479 万 6 千円という予算要望、中学校につきましては、平成 28 年度 190 万円に対して今年度は 315 万 1 千円の予算要望となっております。前年と比較いたしますと 200 万円程度の予算増額要望をしているところでございます。

最後になりますが、6 ページをご覧くださいと思います。資料 6 でございます。平成 29 年度当初予算に係る教育費の主要事業の説明をさせていただきます。資料 6 はソフト事業を含めた資料となっております。昨年 12 月開催の教育委員会会議に配布したものでございます。学校教育課、生涯学習課、

給食センター、図書館を含めた平成 29 年度予算の要望を記載しておりますので、ご覧いただきたいと思います。私からの説明は以上でございます。

飯田町長

まず、学校教育関係で意見交換をさせていただきたいと思います。最初の小中一貫教育等の推進につきまして、何かご意見ありませんでしょうか。

田村教育長

内容は、今説明したとおりで新しい学習指導要領が平成30年、31年からスタートします。その中に、社会に開かれた教育課程が理念とされており、具体的な内容では、幼稚園から大学までの一貫教育や、地域、家庭、学校、社会全体で教育を進めるということが、具体的に記載されています。先進地視察での報告を聞きますと、非常に効果が上がっており、是非小中一貫校等の推進の取組みを行い、平成30年には何校かモデル校を設置したいと考えている状況です。教育委員会会議の中でも若干触れさせていただきましたが、平成28年度、29年度の2カ年で準備を進めていきます。

飯田町長

推進会議のメンバーの人数は何人ですか。

高橋課長

24人です。各学校から教諭1人、校長、教頭、連合PTA役員、教育委員会の学校教育推進委員です。

飯田町長

校長、教頭は何人ですか。

山岸教育部長

校長、教頭は4人で、校長、教頭が推進会議委員でない学校は、教諭が委員となっています。

飯田町長

教育現場がどのように考えるかが一番のポイントだと思います。子ども達にとってより良い教育内容になっていく事が一番だと思いますしあまり事務方が押し進めると、実施段階でうまくいかないという事例があります。

田村教育長

先進地ではトップダウンで実施している例が多く、現場が混乱する状況が見られます。今回は、教諭をメンバーに入れ、みんなで作り上げて行く考え方で実施していきます。

飯田町長

教育課程が変わり、地域で学校を支えていこうという形がより一層強まって行くとした時に、このリスクをどのように考えていくのか、そのような状況も並行して考えていくのですか。

田村教育長

はい、みんなで作り上げて行く考え方で実施していきます

小尾委員

今後の予定に、児童生徒のアンケート調査の実施がありますが、保護者を対象にしたアンケート調査の予定はありますか。学校区内の地域の声ですとか意向はどのようにくみ取って行くのか。

飯田町長

すでに、アンケートは実施していますね。児童生徒に対しては問い方が非常に難しいと感じています。

高橋課長

事務局では、アンケートは保護者の方々に予定をしております。地域の方々につきましては、今後、講演会でありますとか意見交換の場だと考えており

ます。12月の地域の説明会等において地域への説明、意見交換の予定を考えています。

飯田町長

研究所で実施した児童生徒へのアンケートは、どのような趣旨や内容、意図で実施しましたか。

高橋課長

町の教育研究所での、小学6年生と中学1年生を対象にしたアンケートと調査については、小学校6年生には、小学校で勉強、中学校に進学での期待や不安といった内容で、中学1年生は、小学校から中学校へ進学したときにどのような変化や不安があったかなどの内容と聞いています。

田村教育長

小中連携一貫のひとつの目的に「中1ギャップ」解消がありますので、その部分を中心にアンケート調査を実施しています。

小尾委員

町内でのモデル校を設置には、地域の特色を十分に配慮した形で持続的な設置が望めるような体制が必要と思います。

飯田町長

明倫小、糠小から糠中へ、忠類小から忠類中へ、幕小から幕中へとある程度同じ地域での進学が良いと思いますが、途別、古舞小は小規模校からいきなり札内中の大規模中学に進学します。そこで地域性が同一にならない難しさがあります。地域性が同じような小中一貫がまずモデルになるかどうかと思いますが、どうでしょうか。

山岸教育部長

モデル校の具体的な検討になりますが、町長、教育長の話がありましたように、地域的なまとまりの中学校区でという考え方が良いのではないかと内部で協議しております。モデル校の設定には、小中一貫の形といたしまして統合型、隣接型、近隣型の3つのパターンあります。モデル校の設定には、小中学校がすぐ近くにあるような学校ですとか、様々な形での設定を検討していかなければと思っております。

飯田町長

他に何かご意見ありますか。

滝本委員

今、小尾委員からもお話がありましたように地域密接した学校が大事だと思います。その中で、「少子化」、「中1ギャップ」含めた中で小中一貫の考え方は、地域の方に愛される学校でなければならないと思います。また、保護者の方々や子ども達に対して、より良い学校教育現場であることが第一前提あると私は思います。新しい教育課程のお話が教育長からありましたが、子ども達がより良い環境の中で教育を受けることが重要と思います。小中一貫教育のモデル校の設置は、どのような学校区で進めていくかは大事な要素であり、町内では、国道・鉄道による分断等もありますので、それらも含め十分な検討が必要と思います。

小尾委員

私の場合は、小学校の入学は新和小中学校で、中学校の先生も一緒に学校の授業ですとか運動会そして学芸会にしても、顔なじみで中学校に移っても「中1ギャップ」のような環境にはならなかったです。そういうところが一番小中一貫教育の良いところで、児童生徒の心理的な部分が一番大切だとは思っています。

飯田町長 富村牛小中学校も非常に良い例として言われます。中学生が小学生の面倒を見ているなど聞いています。一番目の小中一貫教育等の推進については、終わらせていただきます。

次に、義務教育支援事業補助金につきまして、何かご意見ありますでしょうか。

小尾委員 この件に関しては、町長の公約といたしますか、是非ともなんとか実現させていただきたいと思えます。教育委員会としても保護者の負担軽減の面でも大いに期待しています。

飯田町長 これは1年以上検討しておりますので、是非私も予算計上したいという気持ちです。全体の中でどのようになるか、この場で実施しますとは言えませんが思いは強いものを持っています。二番目の義務教育支援事業補助金については、ここで終わらせていただきます。

次に、学校図書館の図書購入につきまして、何かご意見ありますでしょうか。学校図書館の図書購入に関して特に指導等があったのでしょうか。

田村教育長 特に指導があったわけではありませんが、議会ですとか教育委員会会議の中で話題となっています。学校図書館の標準は学級数で標準冊数が決まります。資料の(3)の学校図書館図書標準の達成率の表をご覧ください。学級数が増えた場合は、平成27年の札内中の図書標準は13,120冊であります。平成28年には、学級数の増加により図書標準も13,920冊になっています。学級数が減っている学校では、例えば白人小の平成27年は8,760冊が平成28年には8,360冊と減少しており、学級数の増減により、図書標準が変更となります。廃棄される図書もありますが、標準数に対して蔵書数が低く達成率が低い状況にあります。

飯田町長 学校図書館の管理については、図書館司書と連携して進めていませんでしたか。

山岸教育部長 図書館司書との連携については、学校図書の選定において中学校はシステムが繋がっていることから図書館司書に選定していただいておりますが、小学校は学校での選定となります。

飯田町長 学校図書につきましては、当然100%に近づけることが望ましいと思えますが、平成29年、平成30年で実施が可能かは予算編成での協議となります。他にご意見ありますでしょうか。

滝本委員 私も教育委員会会議の中で図書の充足率について、話した経過があります。子ども達が少しでも本を読み、活用も含めて利用の向上を図っていただけることが最大の目的であり、活用していただくことによって子ども達の成長が促されればと感じています。予算がないことには、当然充足も進んでいきませんので、新年度の予算の中に是非配分いただきながら充足率を高めていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

飯田町長 充足した後の更新はどのぐらいかかりますか。小学校の平成29年度479万6千円の要望額は増やすものでありますが、更新も含まれているのですか。

山岸教育部長	この金額は、100%に近づけるためだけのものです。更新に関しては、平成30年度以降、学校管理費で平成28年度をベースに予算の中で整理していく考えです。
飯田町長	次に、教育費の主要事業につきまして、何かご意見ありますでしょうか。
山岸教育部長	資料6の補足説明をさせていただきます。教育財産費においては、札内南小学校の校舎を児童生徒数の増加により新学級を中心に増築と、幕別小学校体育館の雨漏りが激しいことから、屋根改修を重点的に実施していきたいと考えています。また、スクールバスについても、中里線が故障も多く部品がないことから更新での予算を要求しています。学校管理費では、特別支援教育支援員については、本年度と同じ規模で要求させていただきましたが、本年度、支援員と教諭の打ち合わせ時間がなく、打合せする時間を確保して欲しいとの強い要望がありましたことから、特別支援教育支援員の賃金について、週1回1時間分の追加をお願いしている部分が新しい要求でございます。ICT関係は、昨年度から3カ年の実施計画に基づきまして、ICTの環境を平成29年度と平成30年度で全ての学校に整備することとなっております。学校関係につきましては、今お話したとおりです。次に、社会教育費を説明させていただきます。総務費では、交流しておりますメルローズハイスクールの平成29年度受入、また、郷土館費につきましては、後ほどご説明させていただきますが、ふるさと館と蝦夷文化考古館とのあり方等を見越しまして、地域おこし協力隊(学芸員)を募集したいということで予算を要求しております。図書館費では、北の本箱事業が今年で20周年を迎えますことから、それらに関する事業を展開してまいります。最後になりますが、保健体育総務費では、未来のオリンピック選手を育てる事業を継続して実施してまいります。これらが特に主要予算ということでご説明させていただきました。
飯田町長	これは11月か12月に教育委員の皆さんには説明していますか。
山岸教育部長	はい、説明しています。
飯田町長	それでは次に、生涯学習関係の説明をお願いします。
湯佐課長	資料4をご覧ください。札内地区のプールについてです。現在3カ所の町民プールがございますが、特に札内東町民プールが建設してから50年が経過しており、老朽化がかなり進んでいる状況にあります。札内地区のプールの建設計画につきましては、札内東町民プールを単独で建替えの計画でしたが他の2カ所のプールも建設後30年近く経過しており、近い将来建替えを考えなければならない時期が参りますことから、建設コスト、ランニングコストを考慮し統合して札内地区に1カ所のプールにすることに計画を変更したところであります。現在、統合プールの建設計画の原案といたしましては、面積約1,900㎡で通年開設の温水プールで考えております。記載しております、基本設計業務から旧施設の解体工事の合計で約12億5千万円の事業費を見込んでいます。財源につきましては、これまでの町民プールではなく、学校プールとして建設予定のため、文部科学省の公立学

校施設整備費補助金 1 億 7 千万円と地方債 9 億 6 千万円を見込み、一般財源は 1 億 2 千万の予定であります。地方債につきましては、公共施設最適化事業債でありまして、50%の交付税措置がございます。建設場所につきましては、札内南コミセン南側駐車場の西側を予定しており、統合後の送迎を考慮し児童数の多い札内南小学校に近接している場所を選定したところがございます。教育委員会が考えております建設スケジュールにつきましては、平成 30 年度に基本実施設計、平成 31 年度に工事を致しまして、平成 32 年度にオープンしたいと考えているところであります。

続きまして、資料 5 をご覧ください。(仮称)幕別町郷土文化資料館の建設についてです。基本構想案の基本的な考え方と致しまして、ふるさと館と蝦夷文化考古館の機能を合わせて新築するということになっております。面積は 1,822 m²、事業費は約 6 億 2 千万円となっております。事業費につきましては、数年前の試算でございますので増額になるものと考えてございます。建設場所につきましては、現在の考古館の敷地と千住生活館との間の町有地を含め、その間の空きスペースを予定しているところであります。教育委員会で考えております現在の建設スケジュールにつきましては、平成 29 年度に郷土文化特別相談員制度を新たに設け、相談員の委嘱と博物館学芸員として、地域おこし協力隊 2 名の募集を予定しております。この 2 件に係る費用については、予算要求中であります。平成 30 年度に協力隊員を採用いたしまして、特別相談員などと基本構想策定に係る業務を進めていく計画でございます。その後、平成 32 年度以降に建築主体などの工事を一体的におこなうという予定であります。なお、地域おこし協力隊員の募集につきましては、一般社団法人移住交流推進機構と総務省が主催しております移住交流&地域おこしフェアに依頼しての募集となりますが、費用につきましては、200 万円を限度に全額交付措置されます。以上で説明を終わらせていただきます。

飯田町長

最初に札内地区プールにつきまして、何かご意見ありませんでしょうか。教育委員会で、議論あるいは情報提供していますか。

田村教育長

教育委員会会議の中で、以前からお話しさせていただいています。

小尾委員

昨年 6 月かその前でしたか、プールと郷土文化資料館の移設に関して検討した経緯があります。プールに関しては、特に札内地区の住民の方々からも期待を持っていまして、我々も問いかけられた時には計画の内容をお伝えしております。町としても前向きに進めていく方向性を見出していきたいと思えます。

飯田町長

私も札内の老人クラブの新年会でプールの話をされまして、高齢者の方もリハビリや健康増進のためにもプールで歩きたいとの要望を受けています。今のプールは使えるのかを問われ、昼間は子ども達がいるので無理ですけど、その後は使えますという話をしました。長い期間使えるプールが欲しい内容の話をされまして、期待感はあると感じているところであります。

田村教育長

私も地域に会合に行ったときには、プールの話が話題となります。

飯田町長

平成元年の札内南小、平成 2 年札内北小のプールをどのようにするのか、建替後の利用はどのように考えていますか。

山岸教育部長	生涯学習課長から説明がありましたように、平成 32 年のオープン時には 30 年が経過します。今後の維持管理費を考慮しますと完成時には閉鎖を考えています。
飯田町長	取壊し費用については、どの程度必要となりますか。
湯佐課長	資料に記載しております解体工事につきましては、東町民プールではありますが、約 2 千万程度の費用が必要となります。
田村教育長	学校の大規模改修等を実施して行くこととなった場合には、相当の費用を要することとなりますし他の事業等ができない可能性があります。教育委員会では、住民要望を踏まえできるだけ早くに実施したいと考えております。
飯田町長	どちらも子どもたちが関係していますが、プールは社会教育施設の性質を併せ持ち、子どもたちが日常長い時間暮す学校の整備は天秤にかけられませんが、全部が全部一緒にできないことから、どのように考えていくか重要なことと思います。学校の大規模改修を実施するとしたならば、最初は幕小ですか。札内南小ですか。
山岸教育部長	建設であれば昭和 54 年の幕別小、札内北小です。
田村教育長	札内南小も古いですが、傷み具合では今回予算要求いたしました幕小が一番です。
飯田町長	他に札内地区プールに関して何かありますでしょうか。札内地区プールについては、ここで終わらせていただきます。 次に、仮称幕別町郷土文化資料館の建設につきまして、何かご意見ありますでしょうか。 この建設関係で補助金はどのようになっていますか。
山岸教育部長	ハードについては、今のところ探していますが無い状況です。公共施設の統合に関しても今の段階では無い状況になります。
飯田町長	千住生活館をどのようにしていくと言う問題があります。場所については、町全体のことを考慮し協議しなければと思います。
山岸教育部長	地域のセンター的な機能というか集会機能も持っておりますので、この施設を建設する際は、あわせて検討が必要と認識しております。
飯田町長	また、蝦夷文化考古館をどのようにするのか。保存していく方向で検討していますか。
山岸教育部長	構想の中では、石ブロック部分を残す方向で考えております。住宅の部分は、相当古く中も歪みもありますので、解体し石組みのところを残す計画で考えています。
飯田町長	耐震性がなく中に自由に入ることもできないし難しいですね。また、耐震

	補強もできないと聞いています。
山岸教育部長	耐震補強は、できないと聞いています。
飯田町長	この他に何かありますでしょうか。
東委員	郷土文化資料館を新しく建替え話がありましたが、生活館についても住んでいらっしゃる地域の方、そしてアイヌの方の拠り所になっています。どういった形であれ、気軽に入れ集まれるような施設を必要と私は思います。
飯田町長	そうですね。アイヌ文化の集まり等もその施設で活動しておりますし、アイヌ文化伝承を継続していくためにも施設が必要で活動拠点として、地域の方が気軽に入れ集まれるような施設は重要であると思います。
飯田町長	以上を持ちまして第2回幕別町総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。